

第80回コンクール課題 (テーマ=海と空)

幼年 (えんぴつ)

う	ひ	や	た
み	ろ	ま	か
	い		い

小三年 (えんぴつ)

こ	ど	と	空	鳥
と	ん	べ	を	の
だ	な	た	自由	よう
ら	に	なら	に	に
う	楽			
	しい			

小六年 (ペン)

七	水	そ	ゆ	船
割	の	こ	め	を
が	星	に	を	発
海	とい	住	乗	明
の	わ	む	せ	した
地球	れる	人間	て	
は		は		

小一年 (えんぴつ)

大	あ	お	ふ
ぞ	か	さ	う
ら	い	ん	せ
		ぽ	ん

小四年 (ペン)

海	き	耳	波	聞
辺	れ	に	の	こ
で	い	あ	音	え
拾	な	て	が	て
った	貝	ると		き
	が			ま
				す

中一年 楷書 (ペン)

人	新	地	太	す
間	しい	球	陽	る
は	世界	で	系	に
や	をつ	は	を	違
が	くり	なく	活	い
て		て	躍	な
宇宙			の	
に			場	
			と	

小二年 (えんぴつ)

き	兄	海	貝	あ
の	さん	へ	を	そ
う	と	い	ひ	ん
		っ	ろ	だ
		た	っ	

小五年 (ペン)

南	き	形	動	美
極	りの	を	き	しい
地方	よう	変	続	オ
の	に	えて	ける	ー
空	流れ	は		ロ
に				ラ

中二・三年 行書 (ペン)

人	新	地	太	す
間	しい	球	陽	る
は	世界	で	系	に
や	をつ	は	を	違
が	くり	なく	活	い
て		て	躍	な
宇宙			の	
に			場	
			と	

※「ペン」は、つけペン、デスクペン、ボールペンのいずれかを使用。

※幼年から小五までは上一段あけて書いて下さい。句読点は省略します。

漢字かな交じり文を書く (19)

締切り 七月二十五日 (必着)

「初めてのてがみ」 うつみ宮土理
手紙は不思議、
電話のように声かきこえないのに……。
写真のように顔がええないのに……。
なのに、声も顔も、そして体の動きまで
見えてくる不思議な生きもの

奥村憲照

奥村憲照先生書

◎書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり文」の三つがあります。

◎「漢字かな交じり文」は、実用書としてはあたり前のことですが、芸術書としては比較的新しい分野で、近代詩文書とか調和体と呼ばれています。団体によっては、新和様とか新書芸という呼称もあります。

◎月例はがき課題のように、流れの美しいスマートな作品にも出来ますし、上掲の憲照先生のように、あどけなさの残るかわいらしい表現も素敵です。

◎誰にでも読めて、言葉の感動をストレートに表現できる「漢字かな交じり文」の世界をお楽しみ下さい。

※落款(氏名)も作品の一部として、作品の最後に書き入れて下さい。(雅印のみ可)

□作品の出し方

▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部 半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

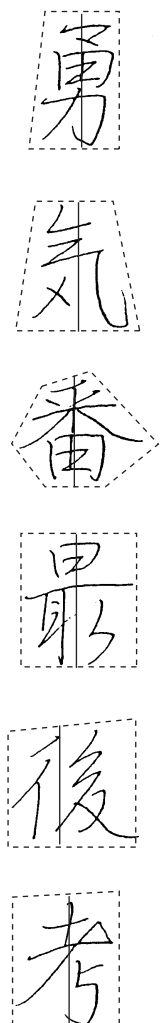
▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

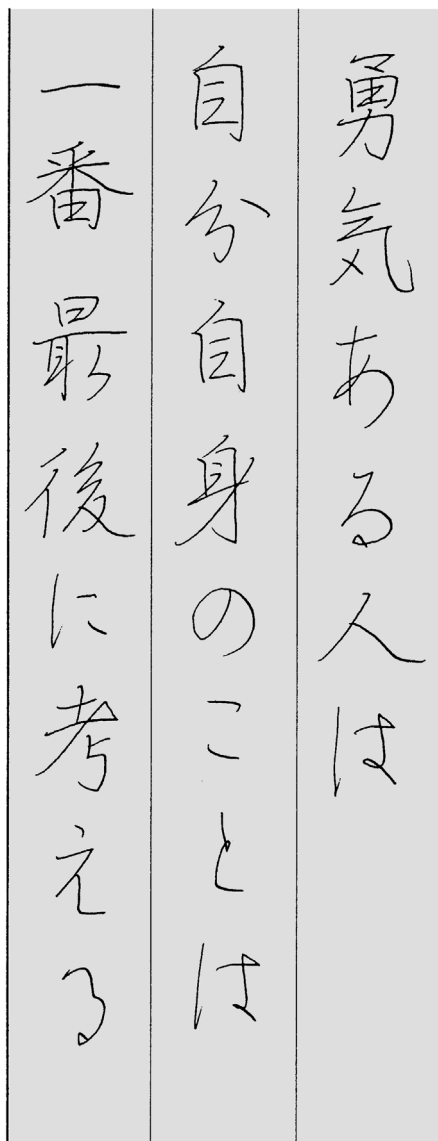
新入から1級まで

〔解説〕

〔解説〕



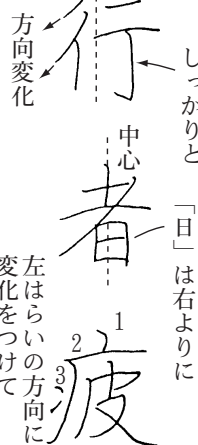
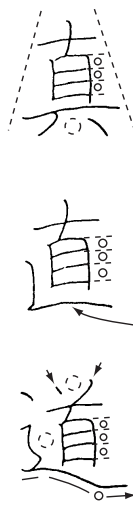
▽行書は実用上応用が広く、最も一般に使われている。その起源については諸説はあるが、晋の王羲之の蘭亭序が最高峰とされている。古典の研究も進めてゆかれること望みます。



おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

▼教範・書範Ⅱ行書
▼師範Ⅱ楷書

◆8月課題予告（行草または草書）
林深ければ鳥棲み
水広ければ魚遊ぶ
太 宗

★勇氣…（書体Ⅱ行書）
シラー（一七五九～一八〇五）
ドイツの劇作家
戯曲『ウィルヘルム・テル』より
勇氣とは、むやみに度胸を誇示することではなく、困難に陥っている他人のために己を顧みず力を尽くすことです。先の大震災において、このような勇氣ある行動がたくさん見られました。心から敬意を表したいと思います。

◆8月課題予告（行書）
病んで後
初めて健康の
価値を知る

★真っ直ぐ…（書体Ⅱ楷書）
アルメニアのことわざ
曲がりくねった道を歩くより真っ直ぐな道の方が疲れないように、人は不器用でも正直な生き方をすれば、心安らかに過ごすことができます。
うまく立ち回って世間を渡ろうとしたり、不誠実な生き方をすれば、良い生活ができたとしても、心は疲れるばかりです。

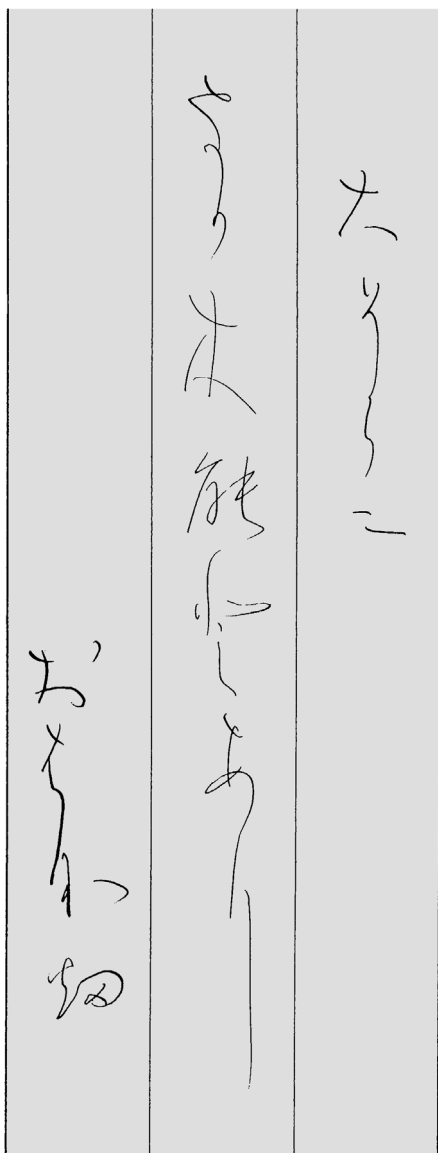
一般部かな課題

締切り 7月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

大空^{曾ら二な可木}に長き能登ありお花畑^{者部}

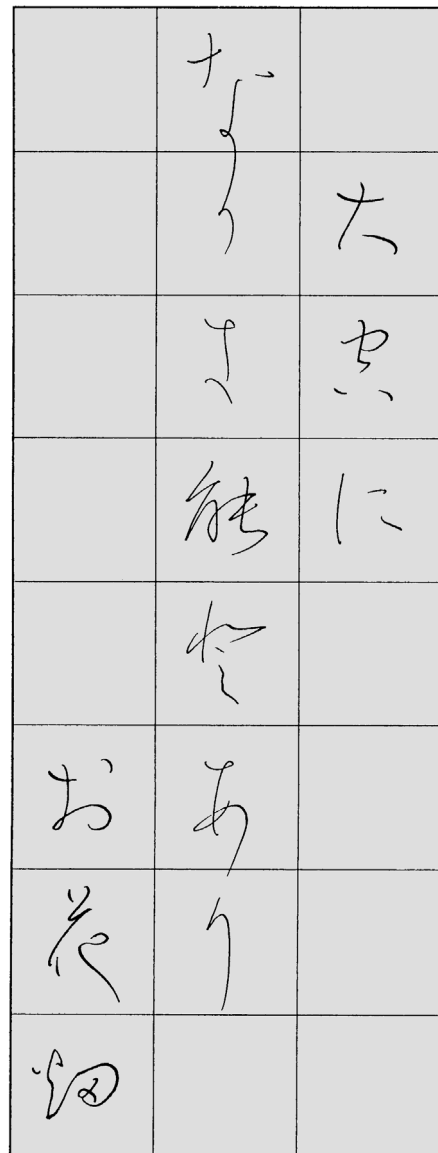


おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

大空^{な可支}に長き能登ありお花畑



おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

◆8月課題予告

朝顔^{あさがは}の双葉^{ふたば}のどこか濡^ぬれるたる

(高野素十^{たかの すじゅう})

那^な 者^は 木^き 可^か 曾^そ

〔古筆参考〕

〔句意〕北アルプスの白馬岳に登って見ると、珍しい高山の草花が一面に咲き乱れ、はるか彼方^{かなた}には、大空の中に、能登半島がくっきりと長く横たわっているのが眺められることである。

大空^{おほぞら}に長き能登ありお花畑^{はなばたけ}

(阿波野青畝^{あわの せいほ})

締切り 七月二十五日（必着）

築瀬舟香書

可さ
重ねてもすしかりけり夏衣
う春支多
薄きたもとにやどる月影
可遣
せしうだじようだ

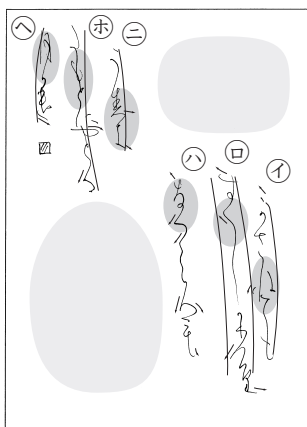
せっしょうだじょうだいじん
摂政太政大臣

〔歌意〕夏衣の薄い袂たもとに月の光が宿っている。この衣と光の衣は重ねて着ても涼しいなあ。

〔出典〕新古今和歌集

（新潮日本古典集成）

〔解説〕



- イとへ、口とホ、ハとホ、二とへ
- ニとホ、それぞれ呼応。
- 墨の動き注意。
- ↙ の方向大切。
- 大きな間を作る。

針切の字形
(二)

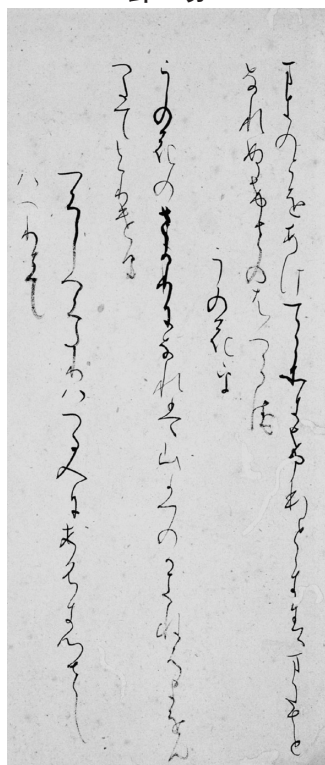
六月号で述べましたが「針切の文字形は縦長である。」と……。それではその縦長の文字が続くとどうなるでしょうか。きっと飽きてしまうと思います。そこで所々に横長の文字を入れて単調になる流れを防ぐのです。

參考資料 同朋出版舎 針切

◆8月課題予告

いさり火の昔の光ほの见えて
あしや 蘆屋の里に飛ぶ蛍かな

〔古筆参考〕
針 切



万支 まきのとをあけてこそきけほとゝぎすまださと
奈 希 者 衛
なれぬけさはつこゑ

うの花を可利奈登
うの花のさ可利奈登きり利造里になれば山可が可つのか可支き者ねは无よをも

つくしへくだりはべる人に、あふぎ心ざし
はべりとて

締切り 7月25日(必着)

クーラー節電対策としてゴーヤを
育てた所、窓辺には涼しげな緑の
カーテンができ、その上実もつけて
一石二鳥です。豊富にビタミンCを
含んでいて、豚肉と一緒に炒めて
夏バテ予防にも役立ちそうです。

クーラー節電対策としてゴーヤを
育てた所、窓辺には涼しげな緑の
カーテンができ、その上実もつけて
一石二鳥です。豊富にビタミンCを
含んでいて、豚肉と一緒に炒めて
夏バテ予防にも役立ちそうです。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか しま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

夏目漱石は、明治38年「吾輩は猫
である」により一躍有名になった。

沖縄県那覇市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 7月25日 (必着)

事
踰
恒
典
於
是

事
踰
恒
典
於
是

〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）

〔読み〕事は恒典を踰ゆ。是に於いて

準初段から師範まで

奥
村
暢
之
臨

鳥
樂
林
深
禽

新入から1級まで（楷書）

澤
静
雨
書

〔読み〕林深く禽鳥楽しむ。

〔大意〕林の奥では鳥たちが楽しくさえずっている。

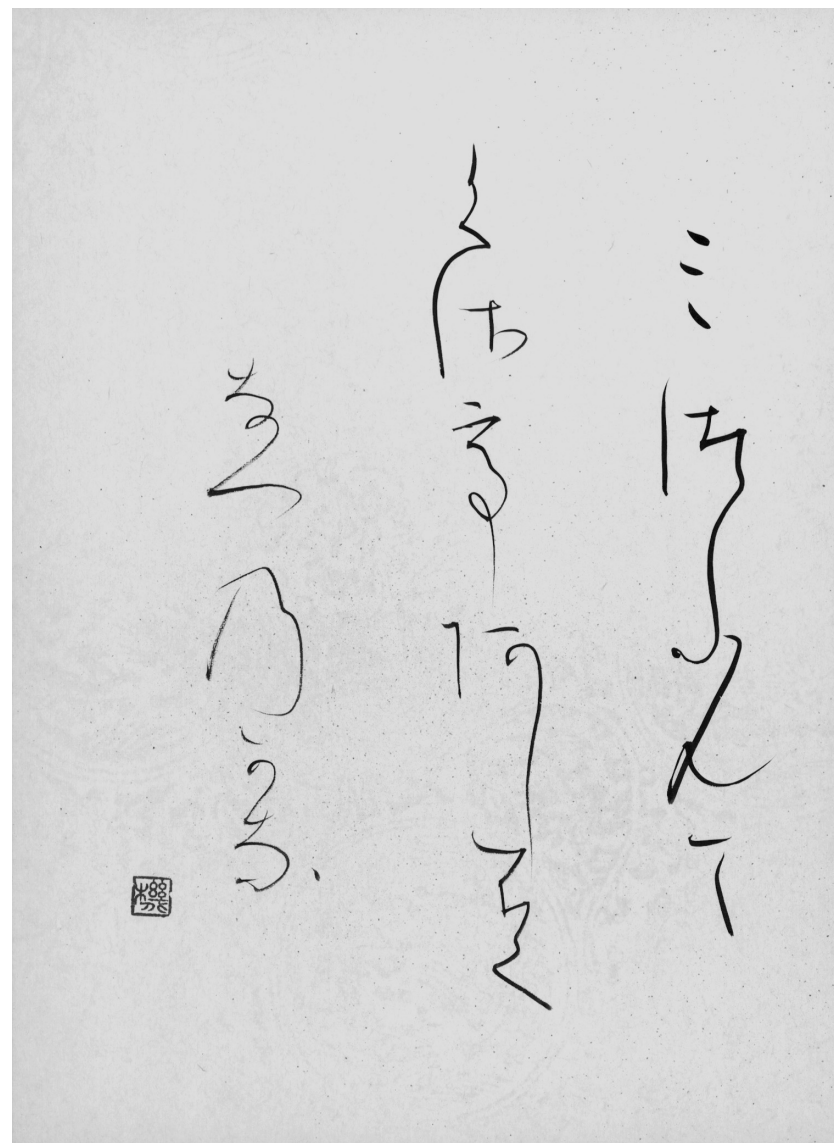
一般部毛筆かな課題

締切り 7月25日（必着）

あさ い き さん
浅井 機 山 先生 書

新入から1級まで

※級位課題をやや高度にさせていただきましたが、出品者の段階に応じた書きぶりに替えても構いません。



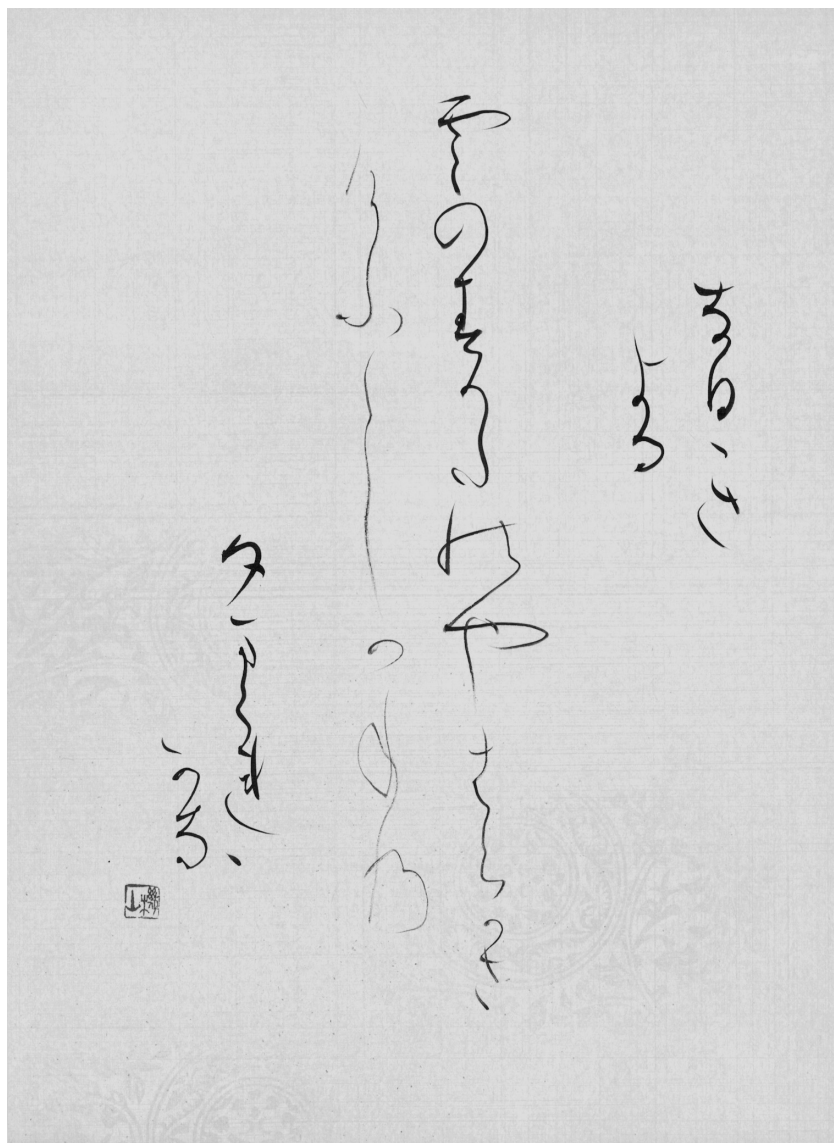
〔出典〕 小西来山

〔句意〕 前書に「在所めづらしく、あらぬかたまでさまよひまはりて」とある。童心にかえたような無造作な動作に、夏の日の自然に弾む心がよく出ている句である。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

三徒
水^くふ^んで^く草^すで^あ足^しふ^く夏^{なつ}野^の哉^や

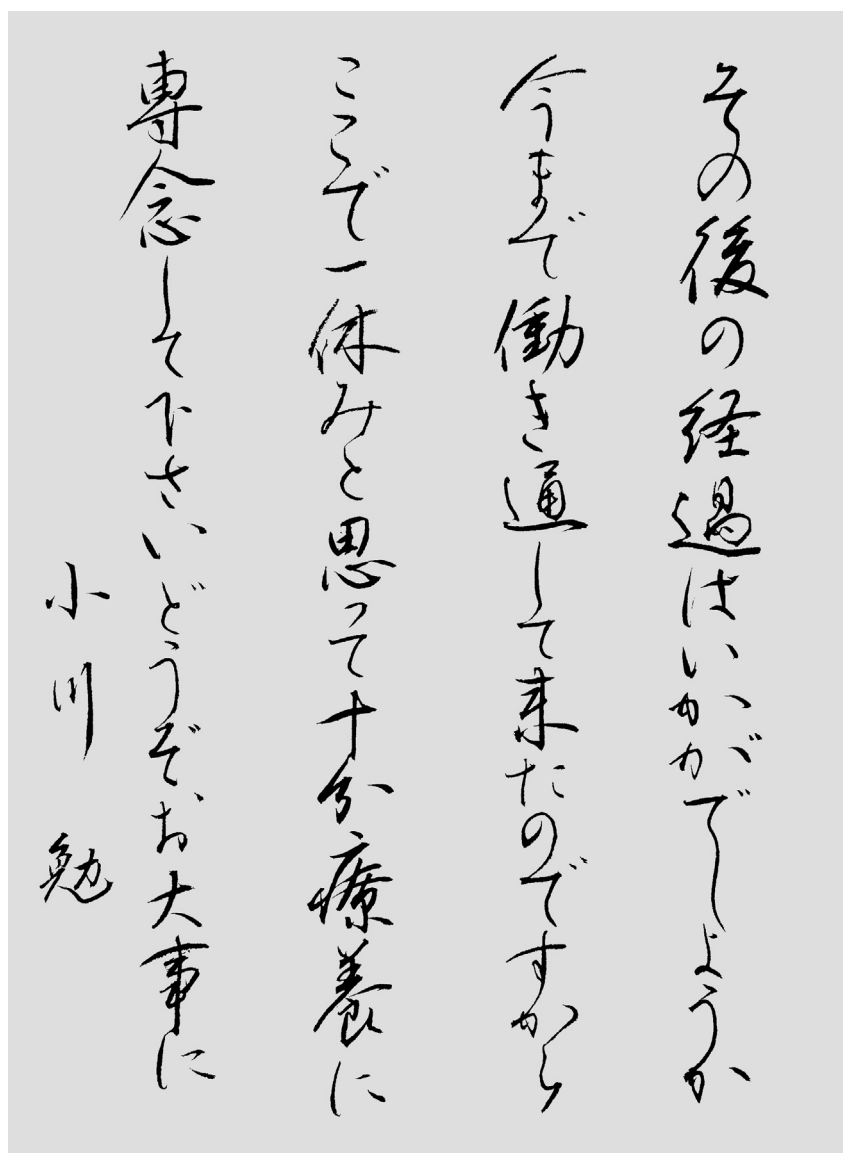


〔出典〕 若山牧水

〔歌意〕 なびき寄る雲の姿のなんとやわらかいことよ。きょうのこの富士山の嶺にただよう夕ぐれの静かさよ。

な^なび^びき^き寄^よる^る雲^うの^の姿^{すがた}の^のな^なんと^とや^やわ^わら^らか^かい^いこ^こと^とよ^よ。き^きょう^{ょう}の^のこ^この^のふ^ふじ^じの^の嶺^のに^にた^ただ^だよ^よう^う夕^ゆぐ^ぐれ^れの^の静^{しず}か^かさ^さよ。

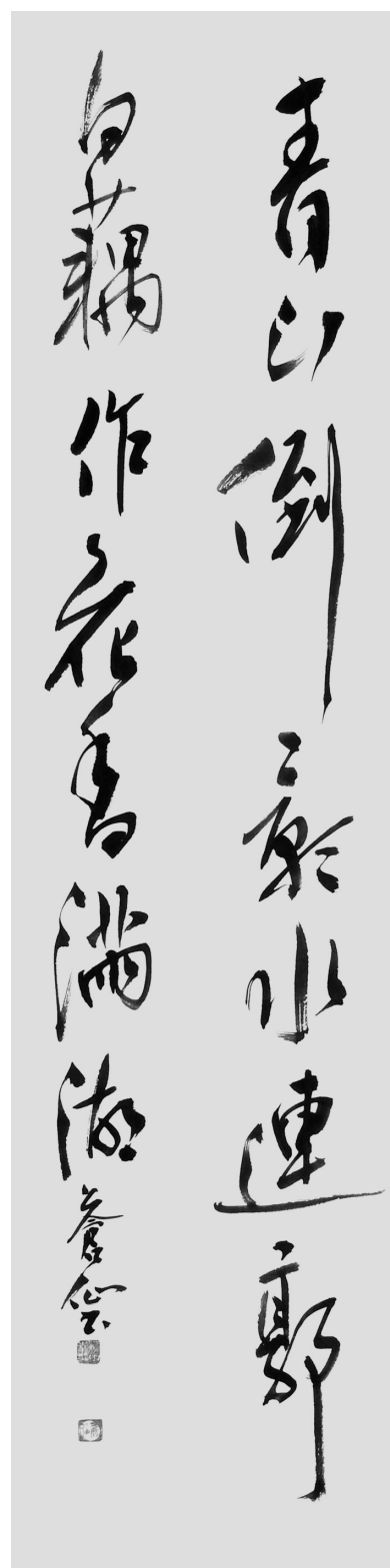
一般部毛筆細字課題



半紙 (334mm × 240mm)

華 書 玲 田 樋

一般部毛筆条幅課題



締切り 七月二十五日 (必着)

半切 (一三六cm × 三五cm)

荻田蒼仙書

青山倒影水連郭
白藕作花香滿湖
荻田蒼仙

〔大意〕青々とした山は水面に連なって映り、美しい蓮の花が咲き湖一面に香りが充滿する。

初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕初心の方から師範迄の方の手下となると、どのクラスに焦点をあてた手本にすればよいか迷います。ということは自分のレベルに合う創作をしてよいのです。上位の方は古典や図録の中のよいものと入れ替えてごらん下さい。案外楽しいものです。只、そのままスナナリ調和して納まるものでもありません。それは上下、左右の字の形、潤渇によって変化調和しなければいけないからです。一人よがりにならないで批評と指導を頂くようにしましょう。自分の楽で得手な書法は個性ではなく、案外、癖、我流になる事もあります。進歩とは苦しい方向に歩むことかも知れません。

その後の経過はいかがでしょうか
今まで働き通して来たのですから
ここで一休みと思つて十分療養に
専念して下さい どうぞお大事に

(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

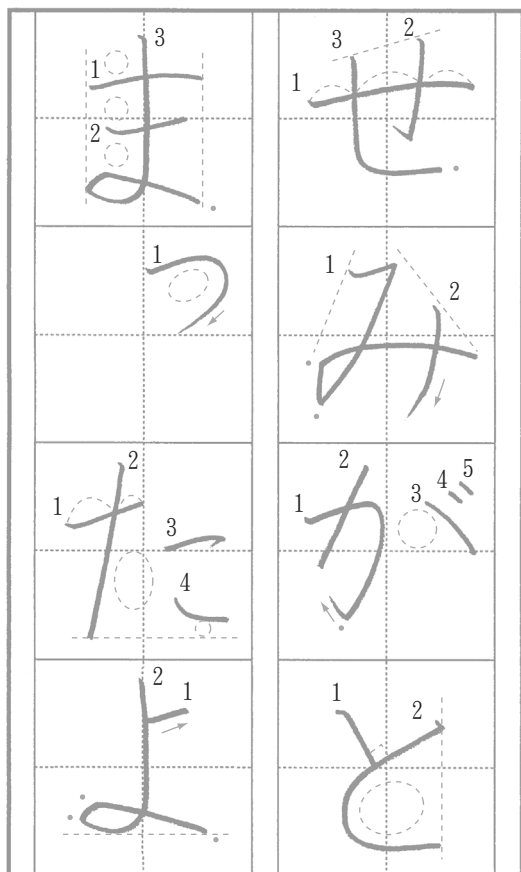
〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績 (天位〜5等) は、評価により毎月変わります。

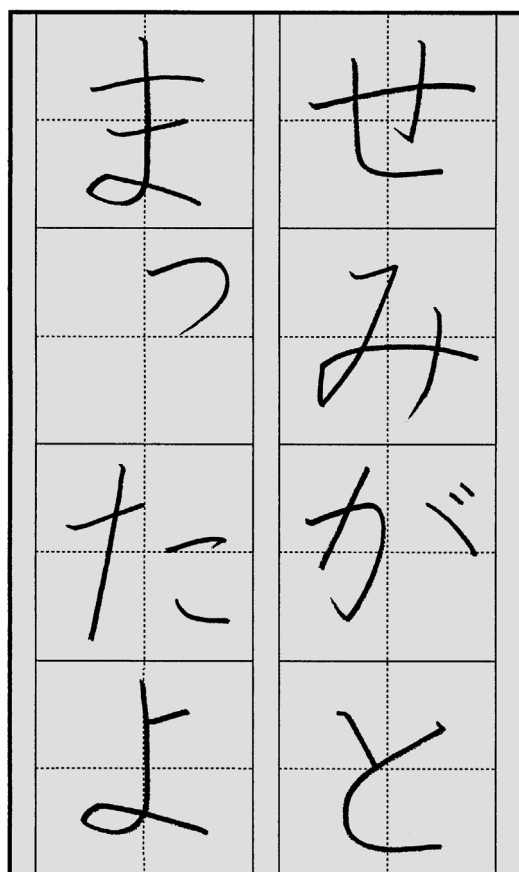
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



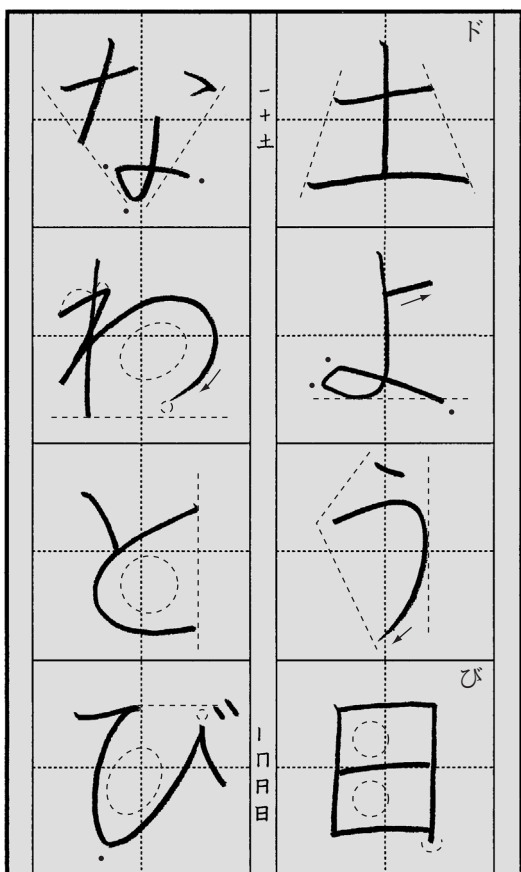
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



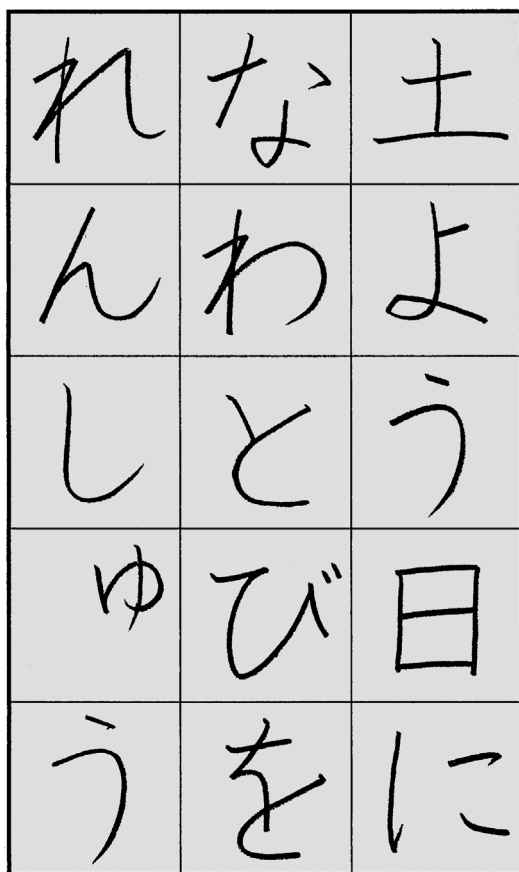
よ
う
年

幼年〜小三年 三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

一丁千王玉	だま 玉	チヨウ 朝
ハハ今今食	シヨク 食	
一門月目	め 目	

新入1級

で	や	朝
つ	き	食
く	を	に
っ	自	目
た	分	玉

準初段以上

小二年

準初段以上

リヨク 力	ウン 運
ドウ 動	
タイ 体	

新入1級

力	運	外
を	動	で
つ	し	元
け	て	気
る	体	に

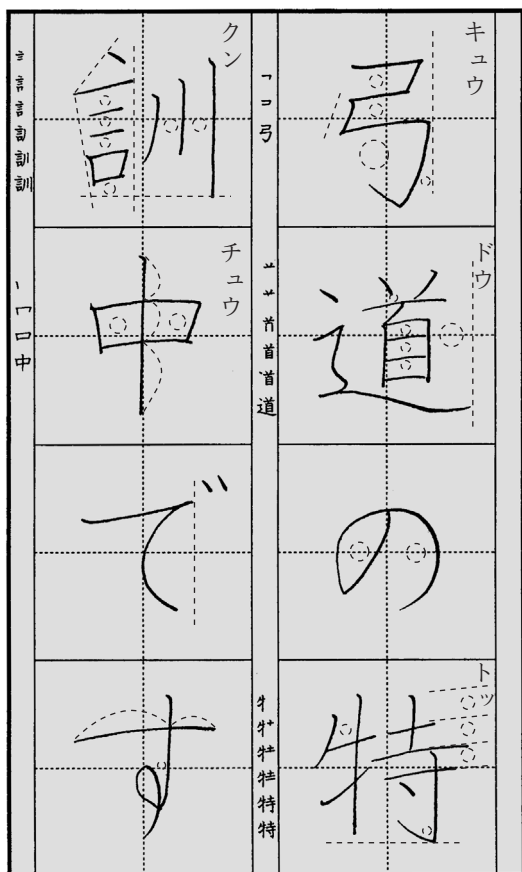
準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

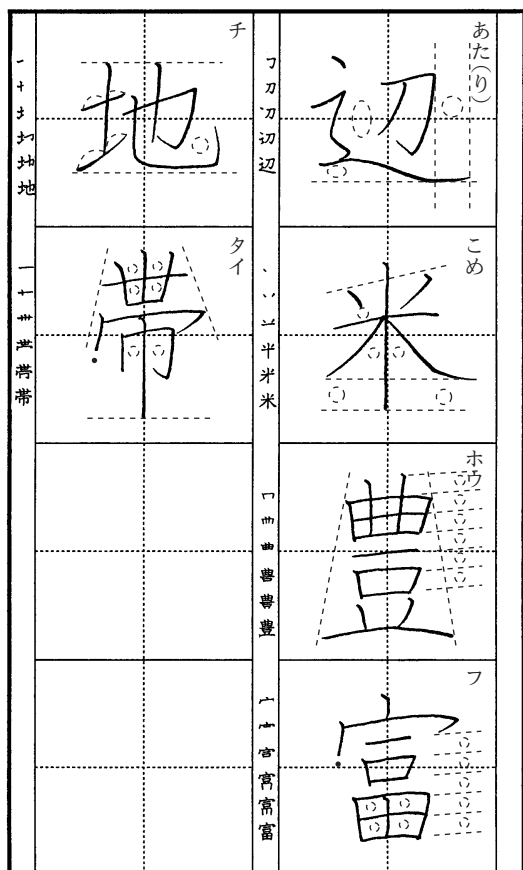
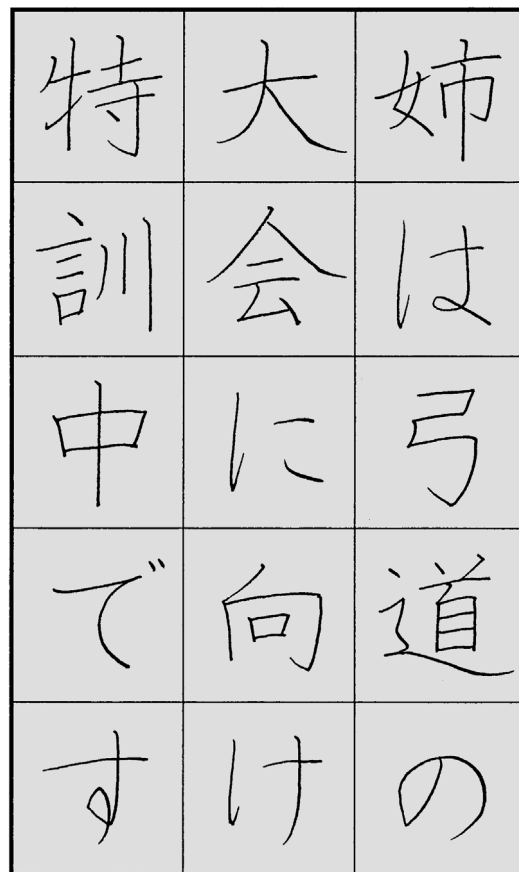
〈用具〉自由(黒色に限る)



新入1級

小四年

準初段以上



解説(よく見て習いましょう)

小四以上 須田一葉書

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

て 手	シヨク 食
あら(い) 洗	チュウ 中
タイ 対	ドク 毒
サク 策	ふせ(ぐ) 防

解説(よく見て習いましょう)

小六年

な	た	食
ど	め	中
で	手	毒
対	洗	防
策	い	ぐ

(全員)

◎お手本は、つけペンで書きました。

担	で	定
当	管	期
し	楽	演
ま	器	奏
す	を	会

中二・三年 (行書)

中一年 (行書)

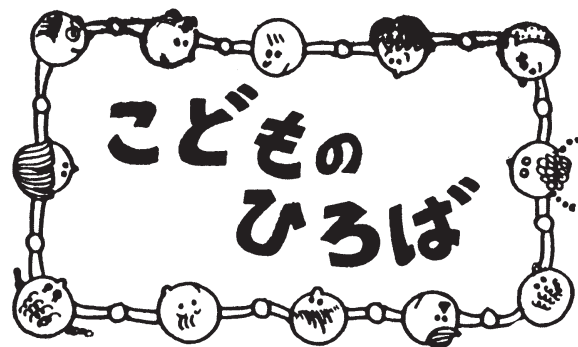
持	買	外
参	い	出
し	物	の
よ	袋	時
う	を	は

▼小三年以下の課題

ふくしまゆうこう
福島有光 書

ス	頭 あたま	母 かあ	チ	か
ツ	も	さん	ヨ	み
キ	気 き	の	キ	の
リ	分 ぶん	と	チ	毛 け
だ	も	こ	ヨ	
		屋 や	キ	

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 7月25日(必着)

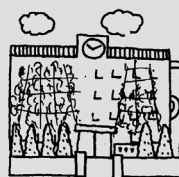
習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

いのうえさいよう
井上彩葉 書

み	校 こう	グ	授 じゅ	環 かん
ん	舎 しゃ	リ	業 ぎょう	境 きょう
な	の	ー	で	問 もん
で	壁 へき	ン	教 おそ	題 だい
作 つく	面 めん	カ	わ	の
っ	に	ー	っ	
た		テ	た	
		ン		

◎お手本はつけペン使用



◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



小二

目玉

幼年／小二年

玉たま
樹き
小しょう
華書か

さい

よ

目よ

玉わ

そり方注意

小二

なわ

小五

地帯

小三

体力

道 体
地 力
帯 弓

小四

弓道

小三、小五年

水野香竹書

中二

定期演奏

小六・中二・三年

奥村暢之書

食中毒
小六

食中毒物
定期演奏

中一
買い物袋